

令和2年度 1学期 終業式挨拶

皆さん、お早うございます。校長の愛川です。終業式も放送での挨拶となりました。皆さんに直接お話する機会が取れないのが残念です。

さて、1学期を終えるにあたって、皆さんにお話しておきたいことがあります。

今年は本来ならばオリンピック、パラリンピックの年。4年に一度のスポーツの祭典に生活の全てをかけて準備してきたアスリートにとって、1年の延期は残酷な決断に思えたでしょう。特に年齢的にも体力的にも限界に近づいた選手にとっては、引退勧告に聞こえたかもしれません。しかし、大切なのは現実を受け止め、どう意識を変え、その現実に向き合うかです。

スポーツクライミングの野口啓代（のぐち あきよ）選手は、東京五輪を最後の五輪と位置づけ、練習を重ねてきたそうです。そんなときの1年延期。野口選手は「オリンピックの延期という史上初の報道を受け、まだ整理がつかないというのが正直なところです。しかし、8月の東京五輪を集大成に位置づけていた私にとって、大好きな競技生活が1日でも長く過ごせることをポジティブに捉えています」と語っています。

辛いとき、苦しいときに気持ちを切り替えられる強さ。この柔軟な心の持ちようがアスリートたる所以なのかも知れません。

新型コロナの影響で私達も様々な苦境に立たされました。私達は野口選手のように強くはなれないかも知れない。けれど、知恵を出し合って、心を寄せ合って乗り越えていきましょう。

明日から夏休みです。新型コロナウイルスは感染拡大期に入っています。国が示す新しい生活様式に従って3密を避け、感染を防ぎながら充実した夏休みにしてください。